

会 議 要 旨

(1 / 3)

会議の名称	令和元年度第5回川越市健康づくり推進協議会
開催日時	令和2年2月7日(金) 14時00分 開会 ・ 14時50分 閉会
開催場所	川越市総合保健センター 3階研修室
議長氏名	会 長 廣澤 光昭
出席者氏名 (人数)	委 員 宮山徳司、西村 早苗、松本 勝、今井 恒晴、井上 弘美、 大塚 賢一、原 伸次、長峰 す美子、米原 民子、 志村 洋子、江尻 旬子(12名)
欠席者氏名 (人数)	副会長 新井 正司 委 員 黒須 淳一、森山 康代、岩田 淳、原 知之、三芳 弘道、 矢部 孝(7名)
事務局職員氏名	保健医療部長 神田 宏次 健康づくり支援課 課長 嶋崎 鉄也、副課長 勝村 則子、主幹 千葉 幸子、 副主幹 長澤 朋子、主査 小高 久美子、主査 斎藤 愛、 主査 佐藤 麻記子、保健師 松本 理沙、保健師 齋藤 薫
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 健康かわごえ推進プラン(第2次)の原案に対する意見公募について (2) 健康かわごえ推進プラン(第2次)の原案について (3) 健康かわごえ推進プラン(第2次)の答申について 4 その他 5 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 名簿(次第裏面) ・ 資料1 「健康かわごえ推進プラン(第2次)」(原案)に対する意見募集の結果について ・ 資料2 「健康かわごえ推進プラン(第2次)」原案 ・ 資料3 掲載コラム一覧 ・ 資料4 健康かわごえ推進プラン(第2次)について(答申) ・ 新型コロナウイルス関連肺炎について ・ 受動喫煙防止対策ガイド ・ ウォーキング講習会チラシ ・ 川越市市民健康講演会チラシ

議 事 の 経 過

<会議の概要>

次期「健康かわごえ推進プラン」の意見公募の結果、原案及び答申案を提示し意見を求めた。

<決定事項>

意見公募の結果は事務局で調整し公表する。原案については委員からの意見を踏まえプランの最終校正を行っていく。また、答申案のとおり、2月20日（木）に市長へ答申する。

<発言内容等>

(1) 健康かわごえ推進プラン（第2次）の原案に対する意見募集について

特に意見なし。

(2) 健康かわごえ推進プラン（第2次）の原案について

●第5章の健康管理の箇所ではアルコールの「適量」とあるが、この表現でよいか。

⇒厚生労働省でアルコールの適量という表現を使用している。再度確認したい。

●83ページの「8020達成者の割合」は、目標値が60%以上で高いが、自分の歯を残すための取り組みの成果は出てきていると思う。介護になっても口腔ケアがとても大切である。

歯周病によって誤嚥性肺炎や全身疾患への危険というのも増えているので、8020の目標値を上げるのはいいが、口腔ケアが自分でできなくなったときのケアなどを含めた取り組みの仕方についても考えてもらいたい。

⇒今後歯を有した高齢者が増えていく中では、自分の歯を残す取り組みと併せて、セルフケアが出来なくなってしまったときにどのようにするかということも併せて、歯科医師会や歯科衛生士会の皆様と一緒に取り組みを検討していきたい。

●取り組みが変わらなければ効果は出ない。中間や期間最終の時にアンケートをして結果を出すだけでなく、色々な指標が改善に向かった取り組みになっているかということ、どのように見ていくかが大切。事業の計画数に対して、実施した回数はアウトプットといわれているが、そのような活動指標ではなく、目標の改善に本当に向かったのかという取り組みの評価を考えていかなければいけない。

何をどのように力を入れていったらいいのかを考える必要があり、日々の活動の中での工夫が目標の達成につながると思う。実際に実施するところまで落として効果につながるようにするためには、どの時点でどう話し合っていくのか。

⇒・今後何をしていくか、また実際に指標を達成するために効果があったのかを見ていくことが一番大切になる。

来年度早々には、今後の取り組み内容やどのように評価をしていくかを協議会の皆様にご審議いただきながら、行政や各団体の推進内容に反映していきたい。

・現在健康マイレージなど環境整備の面で新たに取り組みを始めたものもある。そのような事業で具体的に医療費等を検証しており、歩いている人の方がやや医療費が安くなったというような結果が出たりしている。そういった検証も含めて、アウトプットだけでなくアウトカム効果も結果として出ているようなものを数値化していきたい。

また、計画がどのように施策に反映され次につながるのか、予算のない中でお金をなるべくかけずに工夫して健康づくりが推進できるようなことを考えていきたい。

●行政計画で予算がかかる事業の場合、事業数でどうであったかや国、他の地域との比較で、項目を揃えざるを得ない部分もあると思う。しかし、事業数だけでなく結果がどう変わったかを示していかなければ評価はできないと思う。

●4ページの「プランの構成」は、全てのキーワードが入り、ヘルスプロポジションの理念が盛り込まれている内容でとてもよいが、市民にどれだけ理解されているかがなかなか見えないと

議 事 の 経 過

ころがある。

- 101 ページに健康経営実践事業所が掲載されている。これは健康組合にインセンティブが与えられ、職員が医療にかからなかったら保険料を下げてもらえる。会社の社長からすれば健康であるから生産効率も上がるというような結果が出る。その結果、そのような企業に勤めたいと思う就業希望者が増えれば、とてもいい循環になる。これと同じようなことが市民に起きたら、無関心層も減ってくるのではないか。

事業所が健康経営に取り組むことで、結果どんなインセンティブを得たかというのも評価の基準があった方がいいのではないか。例えばその企業と就業希望者の割合や生産性の効率などを捉えていく視点など。

⇒行政、大学と企業が連携し、食堂を利用した事業を開始した。無関心層にアプローチするためには昼間を多く過ごす職場(企業)との取り組みが必要と思うので、大事に進めていきたい。

(3) 健康かわごえ推進プラン(第2次)の答申について

特に意見なし。